

地域社会との関わり

「良き企業市民」として、地域の人々との交流を通じて互いに信頼関係を築くとともに、事業活動を通じて社会と文化の発展に寄与していきます

地域社会への貢献

》24時間体制で守る道路の安全・安心

「道路は支障なく通行できるもの」という利用者の認識に応える事業が道路の維持・修繕工事です。当社では、高知県高岡郡佐川町を走る国道33号線の維持・修繕工事を手掛けています。地域住民の方々に安心して道路を使っていただけるよう24時間体制で保守作業にあたっています。

ひび割れやくぼみなど破損した道路の修繕はもちろん、大雨の際の道路規制の実施や自然災害に伴う土砂の流入、倒木といった事態にも迅速に対応し復旧作業を行います。「平成30年7月豪雨」では、隣接する愛媛県で西予市を流れる肱川が氾濫し、市の中心部が浸水しました。道路には土砂が山積み通行に支障をきたしたため、路面清掃車、散水車を出動させ復旧作業を行いました。また、このような規模の作業だけでなく、地元の要望を受け、路肩の除草・清掃を行うこともあります。

当社では、日々さまざまな保守作業を続け、地域の皆さまに安全・安心に道路を利用いただけるよう努めています。



降雪時の除雪作業（「平成30-31年度 佐川維持工事」）

》地域の自然環境と共生した建設工事

当社が設計・施工を手掛け、2018年7月に竣工した新潟県内最大規模の「新潟県四ツ郷屋発電所」建設の際は、地形的特徴を考慮し、現場中央部を縦断する市道の線形の緩和化や周辺環境に配慮した飛砂防止措置を実施しました。

また、施工場所に営業した国の絶滅危惧種Ⅱ類の野鳥を保護したほか、発電所の展望施設や地域活動の中心となる地元公民館の建設に携わるなど、地域社会に密着した施工を行いました。



発電所建設に合わせて整備した周辺道路



発電所展望施設



新設された四ツ郷屋公民館

VOICE

安全・安心・快適な道路維持の使命果たす

陥没、倒木などのおそれがある道路を放置しておく、大事故につながる可能性があります。そうした危険要因を未然に発見し、トラブルを防ぐのが私たちの重要な使命です。地下水の浸食が原因と思われる7平方メートルほどの陥没を発見し、短期間で開削・復旧工事をしましたが、工事がもっと長期に

及んでいたら佐川町の皆さまをさらなる危険に晒していたかもしれません。

また、国道33号線が雪の影響で通行止めになったことがありました。除雪作業に3日間を要しましたが、町民や近隣自治体の方々にとっての幹線道路の重要性を痛感しました。一般歩行者や車両が常に安全・安心、そして快適に通行できるよう、これからもしっかりと務めを果たしていきたいと思っております。



平成30-31年度
佐川維持工事
監理技術者
渡辺 敬介



災害復旧

》福島県浜通り地域の復興

2019年3月、東日本大震災で避難指示解除準備区域に指定された福島県双葉町の中野地区復興産業拠点で、地元企業である双葉住コン株式会社と共同運営する「双葉中央アスコン」の安全祈願祭と起工式が執り行われました。

同年12月にはアスファルト合材製造施設が竣工・操業を開始しました。復興の基盤である道路の原材料を製造しながら、生活に欠かせないインフラである道路の復旧や地域の雇用創出によって双葉町の復興再生に向けて貢献していきます。

同拠点内で操業開始した民間企業は初めてで、町からも早期復旧に向けて大きな期待が寄せられています。引き続き中間処理施設の建設を進め、町のにぎわいを取り戻すべく、積極的に貢献していきます。



2019年3月の起工式の様子



2019年12月に操業を開始した双葉中央アスコンのアスファルト合材施設

次世代育成

》地域社会と連携した将来の人材育成

実体験を通じて仕事や社会について理解を深めてもらう機会として、インターンシップや職場見学を広く受け入れています。2019年7月、地域の活性化対策として区内企業と大阪市大正区役所・港区役所が連携し、「大正・港ものづくり事業実行委員会」が中心となって展開している「大正・港ものづくり事業」の一環で、大阪府立西野田工科高校の生徒20名が大阪支店大正アスファルト混合所を見学しました。

当日は混合所内の設備見学や道路舗装に関する基礎講義のほか、全天候型高耐久常温アスファルト合材「楽ファルト」を使って実際に施工体験を行いました。

今後も地域社会と連携し、社会基盤を支える建設業の重要性と魅力を次世代の若年層に伝える取り組みを継続していきます。



道路舗装の仕組みを学ぶ講義



「楽ファルト」を使った施工体験

お客様との関わり

従業員との関わり

お取引先との関わり

環境との関わり

地域社会との関わり